

高裁の和解不調

4月12日に、田村・ライヒェルト両教授の解雇無効確認訴訟第2審における第2回目の和解協議が行われた（名古屋高裁金沢支部）。これに先立つ2月28日の第1回の和解協議で、名古屋高裁は、北陸大学法人に対して、両氏の前職復帰に向けた検討をするように求めていた。両氏と組合側は、基本的に、前職復帰と、バックペイ（不当解雇が認められた場合の解雇時から復職時までの賃金の支払い）を求めていた。しかし、今回の協議でも法人側は、両氏を共に復職させることを拒み、判決を求める姿勢を示した。この結果、同高裁は、6月1日に口頭弁論を設定し、結審することを決定した。判決は8月下旬から9月上旬に下される見通しである。

この裁判では、第1審で解雇無効判決が出された。高裁における地位保全仮処分の申請では仮払い給与の額が増額された。続く第2審で、第1審の解雇無効判決を覆すに足る主張が現れなかったことを考慮すると、第2審の判決は、両氏や組合側にとって、第1審の判決より後退することはないと想定される。したがって法人側は、直ちに最高裁に上告すると予想される。その場合、両氏と組合側は、3度目の地位保全仮処分の申請を含め、続く闘いに備えることを余儀なくされる。しかし、最高裁では、上告審の性格上、控訴審の口頭弁論終結時の事実認定が変わることはない。「法人側に上訴の利益なし」と判断される可能性が高いと観測されている。

とはいえ、裁判継続には費用が高み、組合会計への圧迫も避け難い。組合員各位、並びに、支援する会各位には、事情をご賢察いただき、引き続いてのご支援をお願いする次第である。

組合総会 開かれる

2010年度組合総会が3月26日に白鳥路ホテルで開催された。総会成立の要件が確認されたあと、活動報告、および、会計報告が行われ、次いで次期執行委員が選出された。執行委員には太陽が丘キャンパス枠1名の追加補充も承認された。続いて2011年度の活動方針と予算案が承認され閉会。引き続き懇親会が催された。懇親会では停年退職された執行委員の岡崎和子准教授の送別も行われた。

2011年度執行委員

執行委員長 荒川 靖
副執行委員長 木津治久
書記長 田村光彰
会計 武野 哲
執行委員 三国千秋
同 田端淑矩
同 (太陽が丘キャンパス1名)
会計監査 永井外夫

北陸大学教職員組合
2010年度(2009.03.14~2011.02.28)決算報告書

収支計算書

I 収入の部	予算	決算
前期からの繰り越し	7,307,922 円	7,307,922 円
組合費	1,700,000 円	886,500 円
寄付	0 円	0 円
金利	2,000 円	1,903 円
行事収入	120,000 円	300,000 円
合計	9,129,922 円	8,226,325 円

II 支出の部	予算	決算
事務用品費	50,000 円	0 円
郵便・通信費	100,000 円	2,130 円
コピー・印刷費	300,000 円	38,520 円
資料収集費	100,000 円	0 円
他団体関係費	0 円	0 円
上部団体納入費	350,000 円	330,000 円
旅費等出張費	100,000 円	56,800 円
会議費	80,000 円	12,250 円
弁護士費用	500,000 円	156,107 円
振込費等会計処理費	20,000 円	5,040 円
慶弔費	250,000 円	60,000 円
行事費	800,000 円	125,887 円
裁判準備金	4,000,000 円	0 円
組合10年史出版	500,000 円	0 円
予備費	1,999,922 円	0 円
合計	9,129,922 円	786,534 円

収支残高	0 円	7,439,791 円
------	-----	-------------

貸借対照表

I 資産の部	
普通貯金残高	7,169,045 円
現金残高	270,746 円
合計	7,439,791 円

II 負債の部	
借入金	0 円
合計	0 円

以上のように決算報告をいたします。
2011年3月16日 会計 武野哲 印

以上の決算は正確であることを証明します。
2011年3月16日 会計監査 島崎利天 印

本学教員2名の解雇無効確認訴訟の第2審が2011年春に和解または判決によって終結する見込みである。当事者および北陸大学教職員組合の勝訴が予想されている。本組合は、原告の一員となっているため、これまで裁判費用を分担してきたが、裁判の終結によって、この負担が消滅することになる可能性が高い。しかし、北陸大学法人が再度上告することも可能性としては排除できないので、その備えを欠くことはできないと思われる。したがって、弁護士相談料は2010年度と同額を計上し、その他の手付け金・旅費等、新たに発生するかも知れない費用については予備費を充当することを提案する。

大学の内外の情勢は益々厳しく、入学志願者の減少が収まる気配はない。したがって、法人が組織改編・人員削減に踏み切る可能性が否定できない状況であることはご周知の通りである。今後懸念される新たな闘争に備えて、引き続き、資金の積み上げが組合として重要課題である。しかし、教員数の減少に加え、給与収入の減少により、組合費収入が縮小する傾向にある。この現状に鑑み、今年度の組合費収入は昨年度より200,000円減とした。その他、支出規模を全体として昨年度の2~3割減とした。

組合員各位におかれては、組合活動に積極的に参加していただくと共に、厳しい経済状況の中ではあるが、引き続き組合費の納入をお願いし、もって組合の活力の維持・向上が図られるよう、一層のご協力をお願いする次第である。

収入の部	
前期からの繰り越し	7,187,252 円
組合費	1,500,000 円
行事収入	100,000 円
合計	8,787,252 円

支出の部	
事務用品	35,000 円
郵便・通信費	70,000 円
コピー・印刷費	250,000 円
資料収集費	50,000 円
上部団体納入費	350,000 円
旅費等出張費	100,000 円
会議費	30,000 円
弁護士費用	500,000 円
振込費等会計処理費	20,000 円
慶弔費	250,000 円
行事費	400,000 円
予備費	6,732,252 円
合計	8,787,252 円

学習力の現状は法人の施策の結果

かねてより薬学部在学生の基礎学習力の不足が指摘され、国試合格が不安視されている。2010年度の薬学共用CBT(知識試験)も喜べない数の不合格者が出た。

昨年10月26日の団交で組合は、学生の学力の現状について、法人は教員の所為だと思っているのか、これまでの法人の施策に原因があるとは思っていないのかを質した。法人主導の「学力がなくてもやる気があれば薬剤師になれる」という学生募集の方法が現状を招来していることを懸念し、また、昨今の本学の「実学」教育(薬学や医学は、実学=虚学に対する言葉=の範疇であると思われるが、これに対して、本学でいうところの「実学」は、主に薬剤師の日常業務を意味するようである)や、過度なりべラルアーツ重視の影響で、薬剤師に求められる基礎的な知識の修得をなおざりにし、国試合格レベルのサイエンスとしての薬学の知識を軽視する風潮が強くなっていることを危惧した質問である。加えて、これまでの法人の経営・教育の方針に教員は危機意識を持って来たが、教員側から問題点の指摘があっても、法人側から「方針に合わない」として刎除けられ、結果、教員は意見を言わなくなっている現状をどう認識しているかとも尋ねた。これらに対して法人側は、何ら自らの施策の正当性を主張することなく、「承っておく」と答えるにとどまった。

2004年に始まった「量的拡大を以て質的向上を図る」という呆れたキャッチフレーズ的大幅定員増は、最悪の国試合格率をもたらしただけでなく、世間の信用を失墜させ、志願者減に繋がった。これを挽回すべく、「全国全高校指定校化」や、「秘伝のタレ」教育、「学力がなくてもやる気があれば」などの、欺瞞に満ちたフレーズで形振り構わぬ学生集めを進めたが、学生減が改善されないばかりか、現状の深刻な学習力不足の事態を来した。これは将来の更なる信用失墜への導火線になりかねない。しかし、これらは教員が選んだ道ではない。法人が独善的に実行した施策である。その審判はもうすぐ下される。

現状が極めて重大な岐路に立っていることは誰しもが一致して認識している。そしてここにおいて、本学が採り得る生き残り策は極めて限定されていることについても同様である。その策は、従来路線とは連続点を持たない、徹底した、勇気ある決断でなければならない。北陸大学に勇気はあるか。自浄能力はあるか。